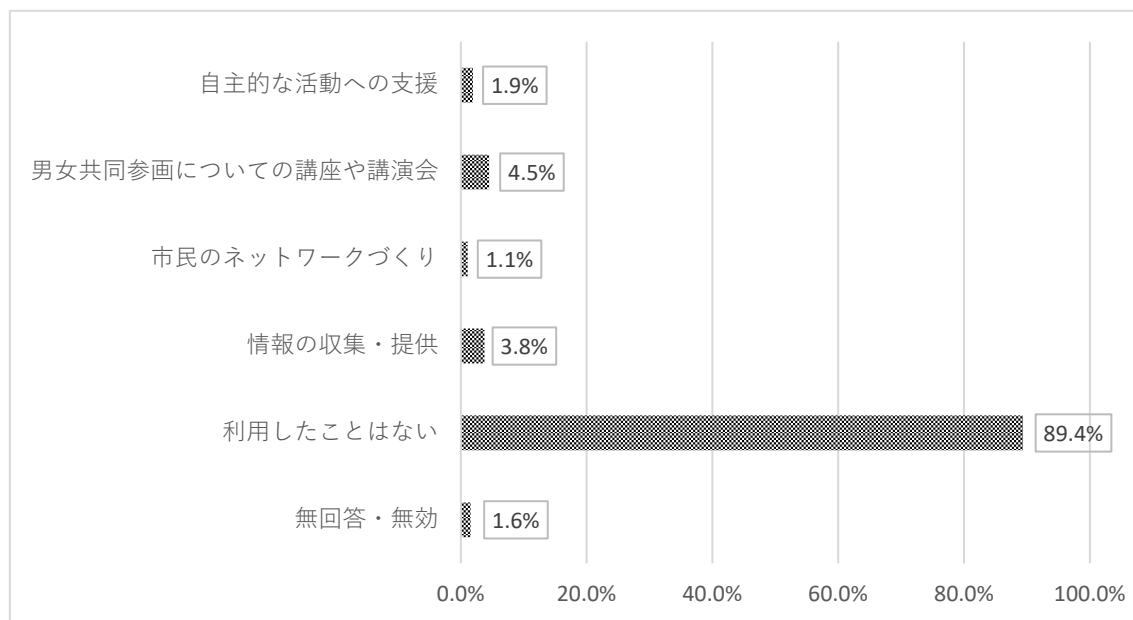


(3) 男女共同参画センターについて

問 10 宝塚市立男女共同参画センター・エルでは、男女共同参画に関する講座や情報誌の発行、図書の貸出、相談事業などを行っています。あなたが今までに利用したものは次のどれですか。(あてはまるものに○(2 つまで))

回答者の 89.4%が宝塚市立男女共同参画センター・エルを「利用したことがない」と回答している。利用されていた項目のうち、最も多かったのは「男女共同参画についての講座や講演会」で 4.5%となっている。

図 11 宝塚市立男女共同参画センター・エルの利用状況 (n=1,083)



性別/年齢別

性別にみると、女性より男性の方が宝塚市立男女共同参画センター・エルを「利用したことはない」割合は高い。

年齢別にみると、「利用したことはない」は全ての年齢層で 85.0%を超えており、「10 代」では 100.0%となっている。おおよそ年齢が高くなるにつれ、「利用したことはない」の割合は減少している。

「男女共同参画についての講座や講演会」の利用は、「60 代」「70 代以上」が他年齢に比べて多い結果となっている。

表 2 【性別/年齢別】宝塚市立男女共同参画センター・エルの利用状況

[上段:実数、下段:%]

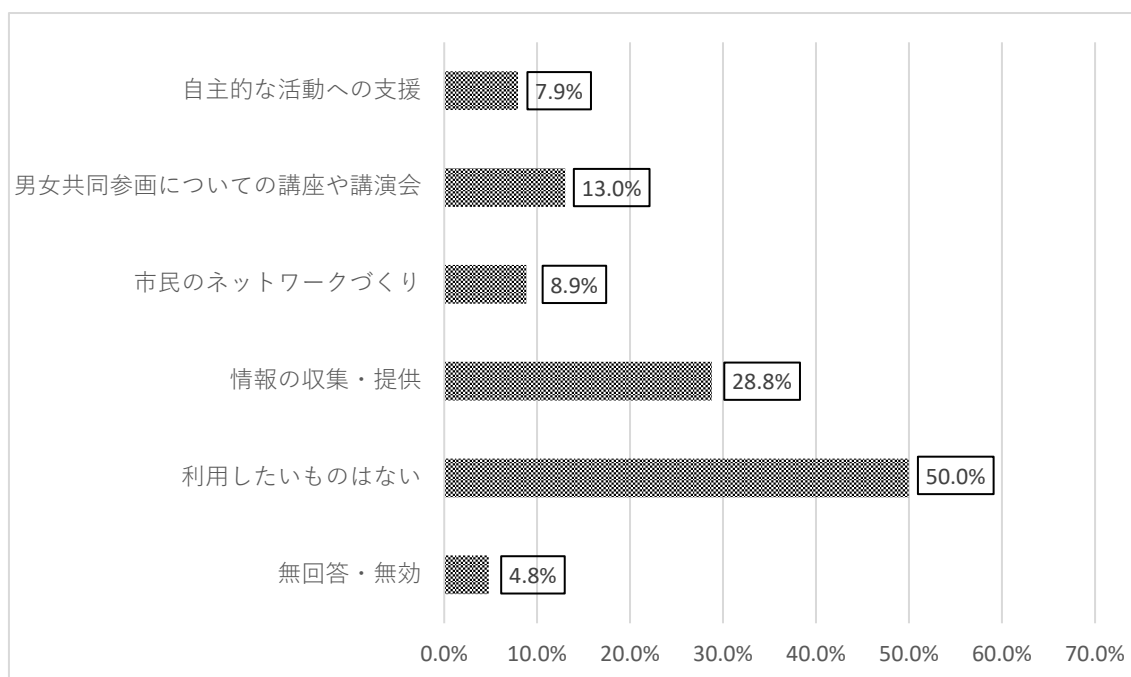
		自主的な活動への支援	男女共同参画に関する講座や講演会	市民のネットワークづくり	収集・提供の情報の提供	利用したことはない	無効 無回答
性別	女性 (n=628)	11	40	6	30	547	10
		1.8%	6.4%	1.0%	4.8%	87.1%	1.6%
	男性 (n=454)	10	9	6	11	420	7
		2.2%	2.0%	1.3%	2.4%	92.5%	1.5%
年齢別	10代 (n=9)	0	0	0	0	9	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	20代 (n=50)	2	1	0	2	45	0
		4.0%	2.0%	0.0%	4.0%	90.0%	0.0%
	30代 (n=66)	0	1	0	3	63	0
		0.0%	1.5%	0.0%	4.5%	95.5%	0.0%
	40代 (n=156)	1	1	0	5	148	2
		0.6%	0.6%	0.0%	3.2%	94.9%	1.3%
	50代 (n=219)	3	7	3	11	199	1
		1.4%	3.2%	1.4%	5.0%	90.9%	0.5%
	60代 (n=203)	3	12	2	8	180	3
		1.5%	5.9%	1.0%	3.9%	88.7%	1.5%
	70代以上 (n=380)	12	27	7	12	324	11
		3.2%	7.1%	1.8%	3.2%	85.3%	2.9%

※「利用したことはない」を除いて割合が最も高い項目に着色

問 11 宝塚市立男女共同参画センター・エルで、あなたが利用したいものは次のどれですか。
(あてはまるものに○(2つまで))

宝塚市立男女共同参画センター・エルで利用したいものについて尋ねると、50.0%の人が「利用したいものはない」と回答している。次いで、「情報の収集・提供」が 28.8%、「男女共同参画についての講座や講演会」が 13.0%、「男女共同参画についての講座や講演会」が 13.0%となっている。

図 12 宝塚市立男女共同参画センター・エルで利用したいもの (n=1,083)



性別/年齢別

性別にみると、女性より男性の方が「利用したいものはない」と多く回答している。また、「男女共同参画についての講座や講演会」は男性より女性の方が多く回答している。

年齢別にみると、「利用したいものはない」と回答した割合が最も高かったのは、「20代」で64.0%、最も低かったのは「10代」で33.3%となっている。

利用したいものとして、「自主的な活動への支援」と回答した割合が他年齢に比べて高かったのは「10代」「20代」で、「男女共同参画についての講座や講演会」では「60代」「70代以上」、「市民のネットワークづくり」では「10代」、「情報の収集・提供」では「10代」「60代」が高くなっている。

表3 【性別/年齢別】宝塚市立男女共同参画センター・エルで利用したいもの

[上段:実数、下段:%]

		自主的な活動への支援	男女共同参画についての講座や講演会	市民のネットワークづくり	情報の収集・提供	利用したいものはない	無回答
性別	女性 (n=628)	50	99	55	195	282	35
		8.0%	15.8%	8.8%	31.1%	44.9%	5.6%
	男性 (n=454)	36	41	41	117	259	17
		7.9%	9.0%	9.0%	25.8%	57.0%	3.7%
年齢別	10代 (n=9)	2	1	2	3	3	0
		22.2%	11.1%	22.2%	33.3%	33.3%	0.0%
	20代 (n=50)	6	3	4	9	32	0
		12.0%	6.0%	8.0%	18.0%	64.0%	0.0%
	30代 (n=66)	3	6	6	21	36	2
		4.5%	9.1%	9.1%	31.8%	54.5%	3.0%
	40代 (n=156)	13	13	13	46	87	2
		8.3%	8.3%	8.3%	29.5%	55.8%	1.3%
	50代 (n=219)	21	25	17	62	118	8
		9.6%	11.4%	7.8%	28.3%	53.9%	3.7%
	60代 (n=203)	10	31	16	68	93	13
		4.9%	15.3%	7.9%	33.5%	45.8%	6.4%
	70代以上 (n=380)	31	62	38	103	172	27
		8.2%	16.3%	10.0%	27.1%	45.3%	7.1%

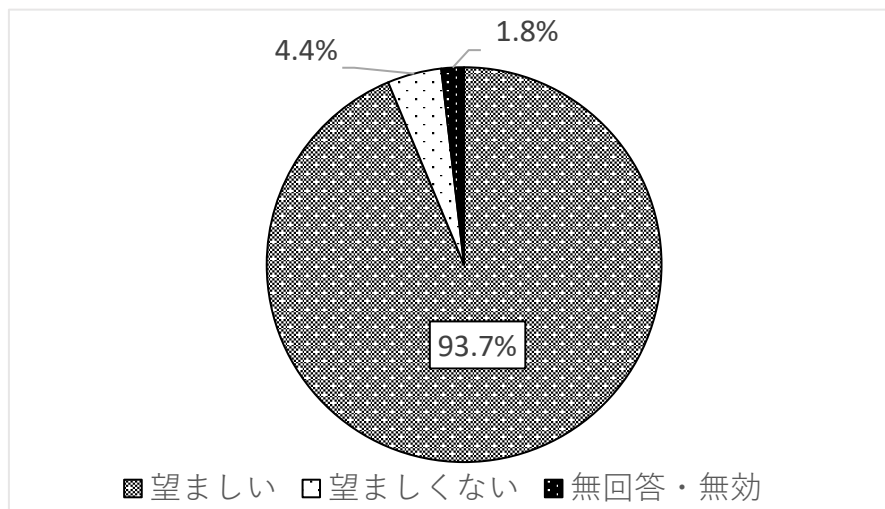
※「利用しないものはない」を除いて割合が最も高い項目に着色

(4) あらゆる分野における女性の参画拡大について

問 12 あなたは、政治・経済・地域活動などの各分野で女性の参画が進み、女性のリーダーが増えることは、望ましいと思いますか。

あらゆる分野で女性の参画が進み、女性のリーダーが増えることについて、93.7%の人が「望ましい」と回答し、「望ましくない」と回答した人は 4.4%となっている。

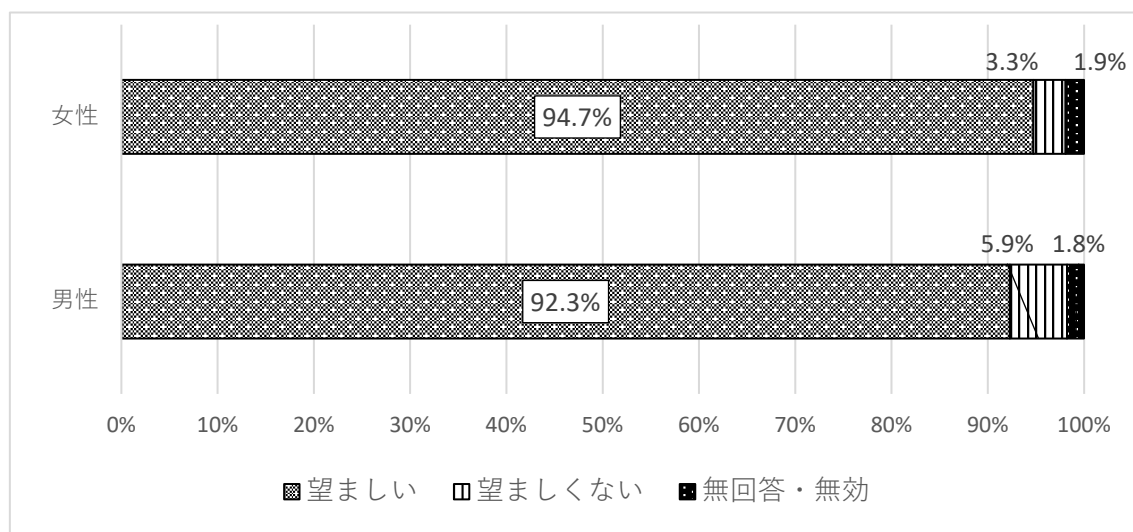
図 13-1 女性リーダーが増えることに対する意見 (n=1,083)



性別

性別でみると、「望ましい」と答えた男性は 92.3%、女性は 94.7%となり、わずかに女性の方が多く「望ましい」と回答している。

図 13-2 【性別】女性リーダーが増えることに対する意見
(女性 n=628, 男性 n=454)

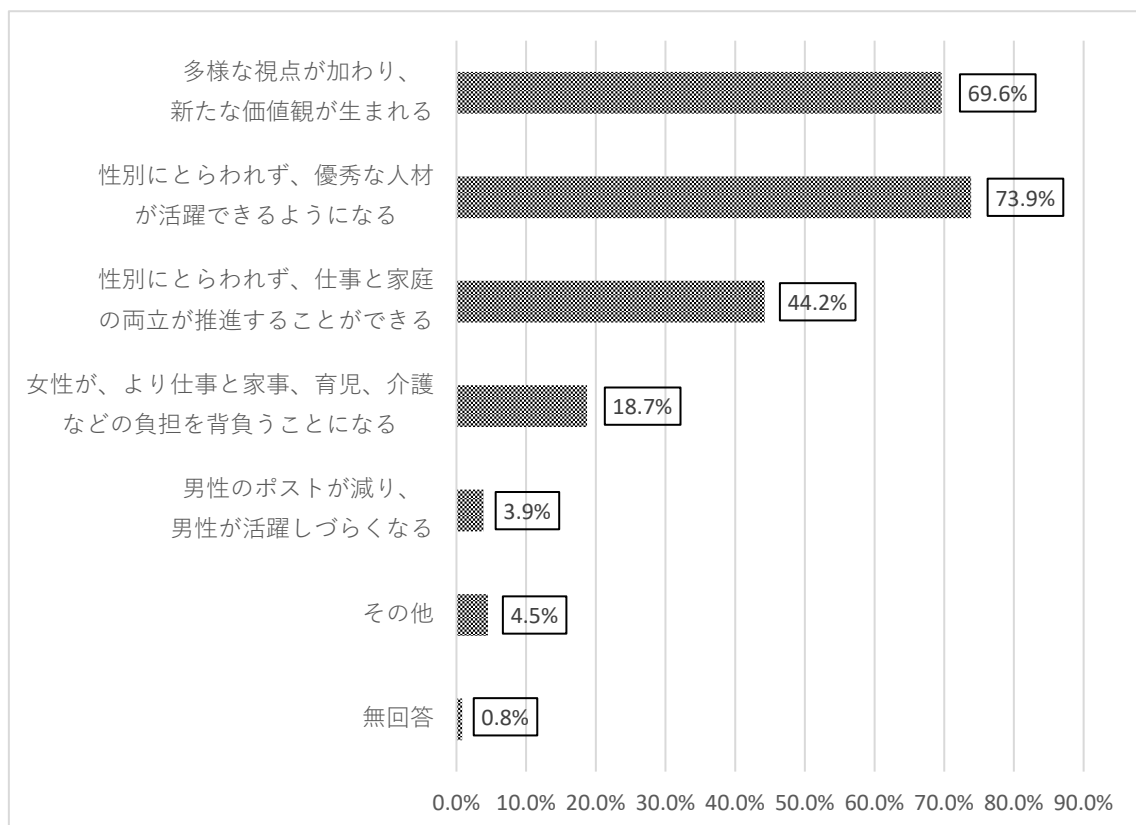


問 13 あなたは、政治・経済・地域活動などの各分野で女性の参画が進み、女性のリーダーが増えると、どのような影響があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

女性のリーダーが増えると、どのような影響があるか尋ねた設問で、最も多かった項目は、「性別にとらわれず、優秀な人材が活躍できるようになる」で73.9%である。

次いで、多い順から「多様な視点が加わり、新たな価値観が生まれる」69.6%、「性別にとらわれず、仕事と家庭の両立が推進することができる」44.2%、「女性が、より仕事と家事、育児、介護などの負担を背負うことになる」18.7%、「男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる」3.9%「その他」4.5%となっている。

図 14 女性のリーダーが増えることによる影響 (n=1,083)



性別/年齢別

性別でみると、「女性が、より仕事と家事、育児、介護などの負担を背負うことになる」の割合は男性より女性の方が高い。

年齢別でみると、若年層において「女性が、より仕事と家事、育児、介護などの負担を背負うことになる」の割合が他年齢と比較して高い。

また、「30代」の「男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる」と回答した人は、他年齢に比べてわずかに高い結果となっている。

表 4-1 【性別/年齢別】女性のリーダーが増えることによる影響

[上段:実数、下段:%]

		多様な価値観が加わり、新たな価値観が生まれる	性別にとられず、優秀な人材が活躍できるようにする	性別にとられず、仕事と家庭の両立が推進すること	女性が、より仕事と家事、育児、介護などの負担を背負うことになる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	その他	無回答
性別	女性 (n=628)	457	476	290	140	21	23	4
		72.8%	75.8%	46.2%	22.3%	3.3%	3.7%	0.6%
	男性 (n=454)	297	324	188	63	21	26	5
		65.4%	71.4%	41.4%	13.9%	4.6%	5.7%	1.1%
年齢別	10代 (n=9)	5	7	4	3	0	1	0
		55.6%	77.8%	44.4%	33.3%	0.0%	11.1%	0.0%
	20代 (n=50)	31	30	19	13	2	4	0
		62.0%	60.0%	38.0%	26.0%	4.0%	8.0%	0.0%
	30代 (n=66)	44	39	35	17	6	5	0
		66.7%	59.1%	53.0%	25.8%	9.1%	7.6%	0.0%
	40代 (n=156)	111	115	70	28	4	12	0
		71.2%	73.7%	44.9%	17.9%	2.6%	7.7%	0.0%
	50代 (n=219)	157	164	96	40	12	7	1
		71.7%	74.9%	43.8%	18.3%	5.5%	3.2%	0.5%
	60代 (n=203)	146	162	96	44	7	7	2
		71.9%	79.8%	47.3%	21.7%	3.4%	3.4%	1.0%
	70代以上 (n=380)	260	283	159	58	11	13	6
		68.4%	74.5%	41.8%	15.3%	2.9%	3.4%	1.6%

※割合が最も高い項目に着色

就業状況別/雇用形態別

全ての就業状況において、「多様な視点が加わり、新たな価値観が生まれる」や「性別にとらわれず、優秀な人材が活躍できるようになる」が多く回答されている。

「性別にとらわれず、仕事と家庭の両立が推進することができる」は「学生」で 26.5%と最も低く、「女性が、より仕事と家事、育児、介護などの負担を背負うことになる」は「学生」で 32.4%と最も高くなっている。

問 3 で「会社、団体、官公庁等に勤務している」と回答した人の中で、さらに雇用形態別に集計すると、就業状況別と同様に「多様な視点が加わり、新たな価値観が生まれる」や「性別にとらわれず、優秀な人材が活躍できるようになる」が多く回答されている。

「性別にとらわれず、仕事と家庭の両立が推進することができる」は、「日雇労働者」の 0.0%を除いて、「契約社員」が 36.0%と最も低くなっている。

「女性が、より仕事と家事、育児、介護などの負担を背負うことになる」は、「無回答・無効」の 33.3%を除いて、「アルバイト・パート」が 30.1%と最も高くなっている。

表 4-2 【就業状況別/雇用形態別】女性のリーダーが増えることによる影響

[上段:実数、下段:%]

		多様な価値観が生まれ、新たな視点が生み出される	性別にとらわれず、優秀な人材が活躍できるようになる	性別にとらわれず、仕事と家庭の両立が推進される	女性が、より仕事と家事、育児、介護などの負担を背負うことになる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	その他	無回答
就業状況別	個人経営の事業を営んでいる自営業主または家族従業員 (n=63)	44 69.8%	52 82.5%	34 54.0%	12 19.0%	3 4.8%	2 3.2%	0 0.0%
	会社、団体、官公庁等に勤務している (n=520)	371 71.3%	385 74.0%	238 45.8%	107 20.6%	21 4.0%	25 4.8%	2 0.4%
	勤務・就労していない (n=372)	262 70.4%	275 73.9%	160 43.0%	59 15.9%	11 3.0%	12 3.2%	4 1.1%
	学生 (n=34)	20 58.8%	23 67.6%	9 26.5%	11 32.4%	2 5.9%	3 8.8%	0 0.0%
	その他 (n=82)	49 59.8%	57 69.5%	33 40.2%	14 17.1%	4 4.9%	6 7.3%	2 2.4%
	無回答・無効 (n=12)	8 66.7%	8 66.7%	5 41.7%	0 0.0%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%
	無回答・無効 (n=12)	8 66.7%	8 66.7%	5 41.7%	0 0.0%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%
雇用形態別	正社員 (n=275)	194 70.5%	191 69.5%	115 41.8%	42 15.3%	14 5.1%	16 5.8%	0 0.0%
	契約社員 (n=25)	20 80.0%	22 88.0%	9 36.0%	5 20.0%	2 8.0%	2 8.0%	1 4.0%
	派遣社員 (n=15)	12 80.0%	12 80.0%	9 60.0%	3 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	アルバイト・パート (n=156)	114 73.1%	123 78.8%	81 51.9%	47 30.1%	5 3.2%	3 1.9%	1 0.6%
	日雇労働者 (n=1)	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	経営者、役員、監査役 (n=28)	18 64.3%	21 75.0%	15 53.6%	5 17.9%	0 0.0%	3 10.7%	0 0.0%
	その他 (n=17)	10 58.8%	14 82.4%	7 41.2%	4 23.5%	0 0.0%	1 5.9%	0 0.0%
	無回答・無効 (n=3)	2 66.7%	1 33.3%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

※割合が最も高い項目に着色

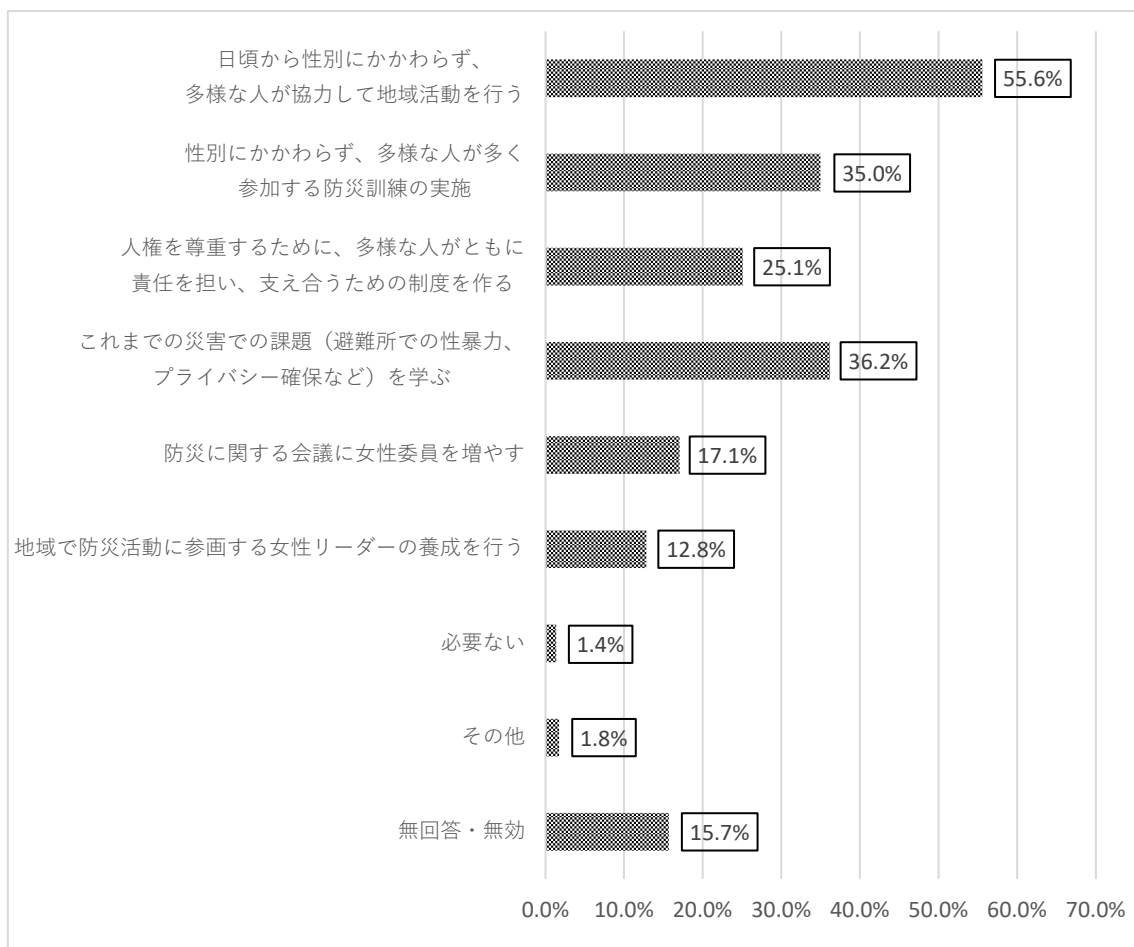
(5) 防災における男女共同参画の推進について

問 14 災害時において、性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくためには、日頃からどのようなことを行っていく必要があると思いますか。
(あてはまるものに○(3つまで))

性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために、どのようなことを日頃から行っていく必要があると思うか尋ねると、最も多かった項目は「日頃から性別にかかわらず、多様な人が協力して地域活動を行う」で 55.6%となっている。

次いで、多い順から「これまでの災害での課題(避難所での性暴力、プライバシー確保など)を学ぶ」36.2%、「性別にかかわらず、多様な人が多く参加する防災訓練の実施」35.0%、「人権を尊重するために、多様な人がともに責任を担い、支え合うための制度を作る」25.1%、「防災に関する会議に女性委員を増やす」17.1%、「地域で防災活動に参画する女性リーダーの養成を行う」12.8%、「その他」1.8%、「必要ない」1.4%となっている。

図 15 性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した
災害対応をするために必要なこと (n=1,083)



性別/年齢別

性別でみると、男女差はほとんどないが、「性別にかかわらず、多様な人が多く参加する防災訓練の実施」は若干の差がみられ、女性で 33.4%、男性で 37.2%と男性の方が 3.8 ポイント高い。

また、「これまでの災害での課題（避難所での性暴力、プライバシー確保など）を学ぶ」は女性で 39.0%、男性で 32.4%と女性の方が 6.6 ポイント高い結果となっている。

年齢別でみると、「人権を尊重するために、多様な人がともに責任を担い、支え合うための制度を作る」は「60 代」で 31.0%と他年齢に比べて高い。

「防災に関する会議に女性委員を増やす」は「10 代」で 33.3%と他年齢と比べて高く、「地域で防災活動に参画する女性リーダーの養成を行う」は「70 代以上」で 18.7%と他年齢よりも高い結果となっている。

表 5 【性別/年齢別】性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した
災害対応をするために必要なこと

[上段:実数、下段:%]

		日頃から性別にかかわらず、多様な人が協力を果たして地域活動を行う	性別にかかわらず、多様な人が多く参加する防災訓練の実施	人権を尊重するために、多様な人がともに責任を担い、支え合うための制度を作る	これまでの災害での課題（避難所での性暴力、プライバシー確保など）を学ぶ	防災に関する会議に女性委員を増やす	地域で防災活動に参画する女性リーダーの養成を行う	必要ない	その他	無回答・無効
性別	女性 (n=628)	355 56.5%	210 33.4%	173 27.5%	245 39.0%	112 17.8%	88 14.0%	3 0.5%	5 0.8%	92 14.6%
	男性 (n=454)	247 54.4%	169 37.2%	99 21.8%	147 32.4%	73 16.1%	51 11.2%	12 2.6%	14 3.1%	77 17.0%
年齢別	10代 (n=9)	4 44.4%	3 33.3%	2 22.2%	3 33.3%	3 33.3%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%
	20代 (n=50)	28 56.0%	18 36.0%	12 24.0%	23 46.0%	5 10.0%	3 6.0%	1 2.0%	0 0.0%	3 6.0%
	30代 (n=66)	33 50.0%	24 36.4%	15 22.7%	30 45.5%	10 15.2%	2 3.0%	1 1.5%	3 4.5%	10 15.2%
	40代 (n=156)	76 48.7%	43 27.6%	35 22.4%	61 39.1%	26 16.7%	15 9.6%	4 2.6%	5 3.2%	27 17.3%
	50代 (n=219)	124 56.6%	73 33.3%	54 24.7%	105 47.9%	45 20.5%	26 11.9%	5 2.3%	1 0.5%	25 11.4%
	60代 (n=203)	122 60.1%	82 40.4%	63 31.0%	76 37.4%	40 19.7%	21 10.3%	1 0.5%	2 1.0%	28 13.8%
	70代以上 (n=380)	215 56.6%	136 35.8%	91 23.9%	94 24.7%	56 14.7%	71 18.7%	3 0.8%	8 2.1%	75 19.7%

※割合が最も高い項目に着色

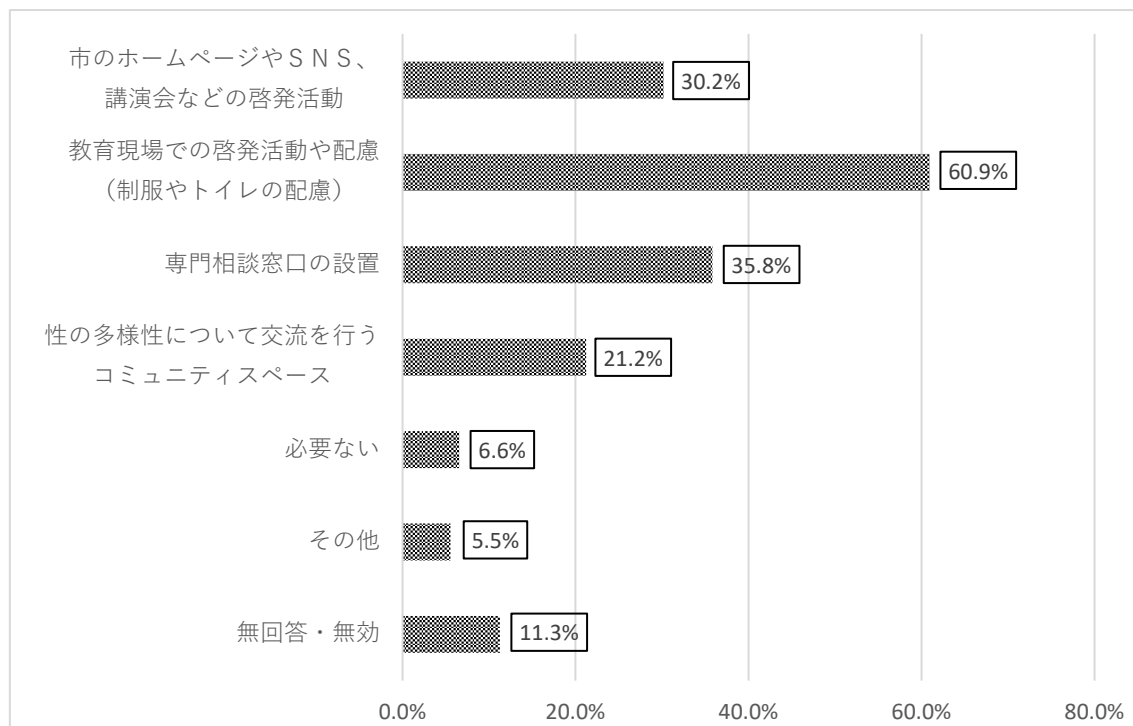
(6) 性の多様性について

問 15 あなたは、性の多様性を認め合う社会を作るために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものに○(3つまで))

性の多様性を認め合う社会を作るために必要なことを尋ねると、最も多かった項目は「教育現場での啓発運動や配慮(制服やトイレの配慮)」で60.9%となっている。

次いで、「専門相談窓口の設置」35.8%、「市のホームページやSNS、講演会などの啓発活動」30.2%、「性の多様性について交流を行うコミュニティスペース」21.2%、「必要ない」6.6%となっている。

図 16 性の多様性を認め合う社会を作るために必要なこと(n=1,083)



性別/年齢別

性別でみると、「専門相談窓口の設置」は女性で 40.0%、男性で 30.2%となり、女性の方が 9.8 ポイント高い結果となっている。

年齢別でみると、「市のホームページや SNS、講演会などの啓発活動」の割合は若年層よりも、高年齢層の方が高い結果となっている。また、「性の多様性について交流を行うコミュニティスペース」は「20 代」で 32.0%となり、他年齢よりも高い。

「教育現場での啓発活動や配慮（制服やトイレの配慮）」は 70 代以上を除く全ての年齢層で 60.0%を超えているが、「70 代以上」では 51.8%にとどまっている。

表 6 【性別/年齢別】性の多様性を認め合う社会を作るために必要なこと

[上段:実数、下段:%]

		市のホームページや SNS、講演会などの啓発活動	教育現場での啓発活動や配慮（制服やトイレの配慮）	専門相談窓口の設置	性の多様性について交流を行うコミュニティスペース	必要ない	その他	無回答・無効
性別	女性 (n=628)	186 29.6%	399 63.5%	251 40.0%	151 24.0%	31 4.9%	35 5.6%	70 11.1%
	男性 (n=454)	141 31.1%	261 57.5%	137 30.2%	79 17.4%	40 8.8%	25 5.5%	51 11.2%
年齢別	10代 (n=9)	1 11.1%	6 66.7%	3 33.3%	2 22.2%	0 0.0%	1 11.1%	2 22.2%
	20代 (n=50)	10 20.0%	30 60.0%	21 42.0%	16 32.0%	5 10.0%	3 6.0%	0 0.0%
	30代 (n=66)	15 22.7%	42 63.6%	16 24.2%	16 24.2%	5 7.6%	6 9.1%	4 6.1%
	40代 (n=156)	49 31.4%	103 66.0%	39 25.0%	33 21.2%	14 9.0%	12 7.7%	10 6.4%
	50代 (n=219)	64 29.2%	148 67.6%	96 43.8%	55 25.1%	14 6.4%	8 3.7%	13 5.9%
	60代 (n=203)	70 34.5%	134 66.0%	88 43.3%	48 23.6%	7 3.4%	10 4.9%	22 10.8%
	70代以上 (n=380)	118 31.1%	197 51.8%	125 32.9%	60 15.8%	26 6.8%	20 5.3%	71 18.7%

※割合が最も高い項目に着色

(7) あらゆる暴力の根絶について

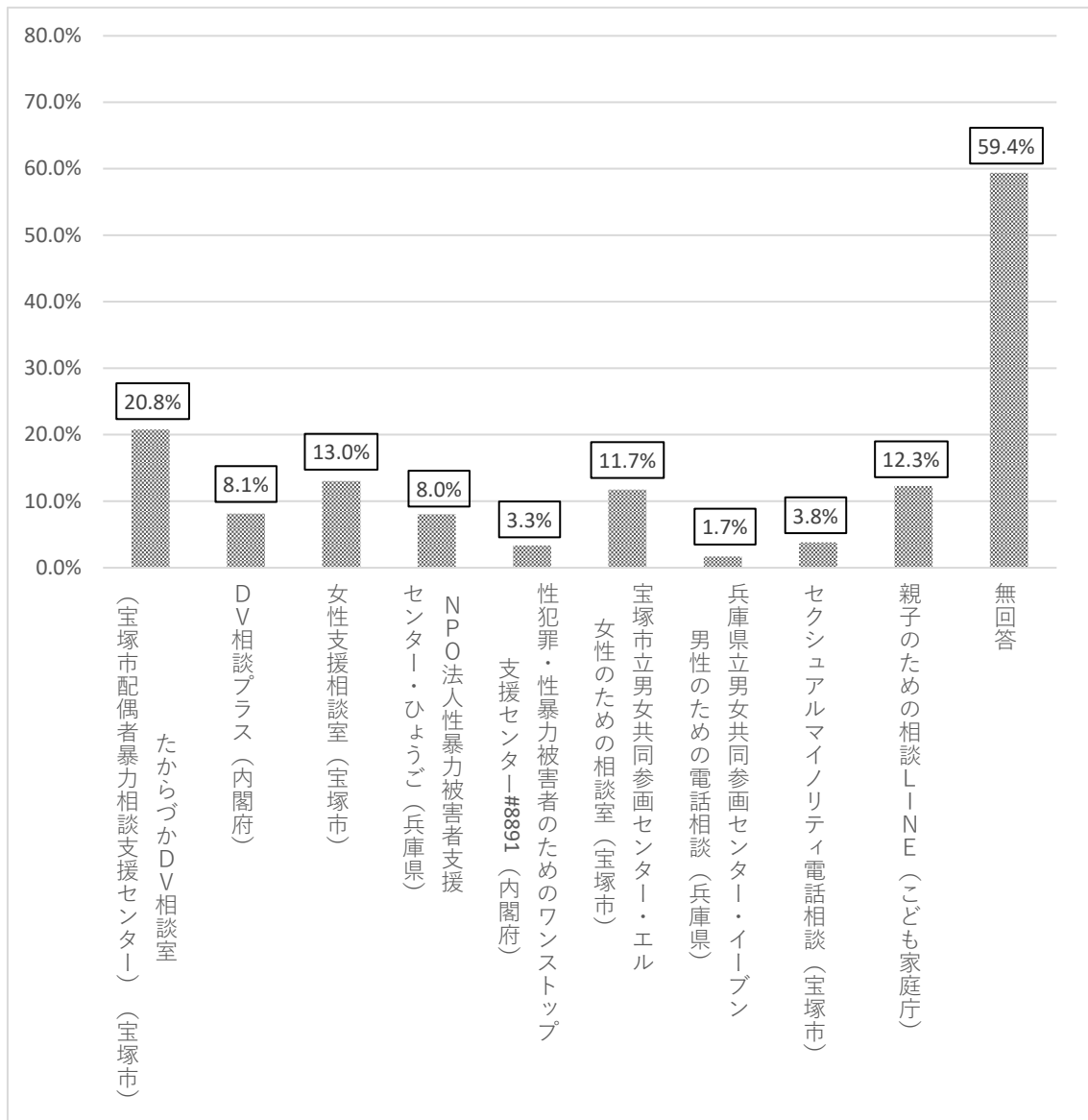
問 16 あなたは、次の相談窓口で、知っているものはありますか。知っているものすべてに○をつけてください。

各種相談窓口の認知度については、「無回答」が最も多く 59.4%となっている。設問が「知っているもの」を選択する形式であったため、「無回答」の中には、回答をしていない人に加えて、「全ての相談窓口を知らない」という人も含まれることに注意したい。

最も認知度が高かったのは、「たからづかDV相談室（宝塚市配偶者暴力相談支援センター）（宝塚市）」で 20.8%となっている。

一方、最も認知度が低かったのは、「兵庫県立男女共同参画センター・イーブン 男性のための電話相談（兵庫県）」で 1.7%となっている。

図 17 各種相談窓口の認知度 (n=1,083)



性別/年齢別

性別でみると、「全ての相談窓口を知らない」という人も含まれると考えうる「無回答」は女性で50.0%、男性で72.2%となり、男性の方が22.2ポイント高い。

また、一部を除く項目において、男性より女性の方が各種相談窓口の認知度は高い。女性より男性の方が、認知度が高い項目は「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター #8891（内閣府）」と「兵庫県立男女共同参画センター・イーブン 男性のための電話相談（兵庫県）」となっている。

年齢別でみると、「無回答」は最も高い「10代」で7割、他年齢でも4～6割程度となっている。

「たからづか DV 相談室（宝塚市配偶者暴力相談支援センター）（宝塚市）」は「30代」の認知度が他年齢と比べて最も高く、「女性支援相談室（宝塚市）」は「20代」「60代」が高い結果となっている。

「兵庫県立男女共同参画センター・イーブン 男性のための電話相談（兵庫県）」の認知度は全ての年齢層において低く、10代～30代では0.0%となっており、40代以降においても1.3%～2.3%となっている。

「親子のための相談 LINE（こども家庭庁）」の認知度は20代～40代が他年齢と比較して高い傾向にある。

表 7 【性別/年齢別】各種相談窓口の認知度

[上段:実数、下段:%]

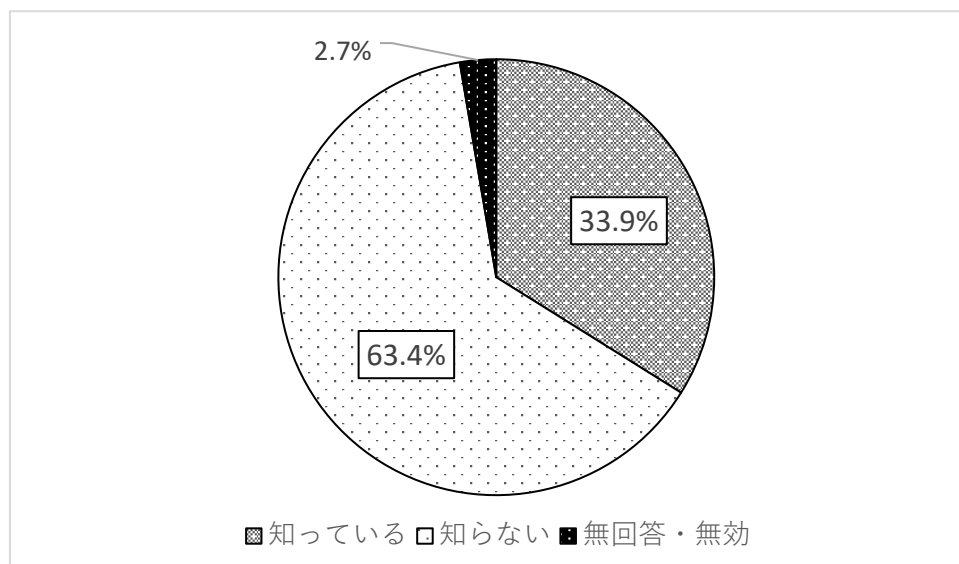
		(宝塚市配偶者暴力相談支援センター) (宝塚市)	DV相談プラス (内閣府)	女性支援相談室 (宝塚市)	NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうご (兵庫県)	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター #8891 (内閣府)	宝塚市立男女共同参画センター・エル 談室 (宝塚市)	兵庫県立男女共同参画センター・イーブン 男性のための電話相談 (兵庫県)	セクシュアルマイノリティ 電話相談 (宝塚市)	親子のための相談LINE (こども家庭庁)	無回答
性別	女性 (n=628)	164 26.1%	57 9.1%	116 18.5%	62 9.9%	20 3.2%	101 16.1%	5 0.8%	28 4.5%	93 14.8%	314 50.0%
	男性 (n=454)	61 13.4%	31 6.8%	25 5.5%	25 5.5%	16 3.5%	26 5.7%	13 2.9%	13 2.9%	40 8.8%	328 72.2%
年齢別	10代 (n=9)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 77.8%
	20代 (n=50)	12 24.0%	6 12.0%	8 16.0%	5 10.0%	2 4.0%	3 6.0%	0 0.0%	3 6.0%	11 22.0%	26 52.0%
	30代 (n=66)	23 34.8%	8 12.1%	7 10.6%	4 6.1%	3 4.5%	2 3.0%	0 0.0%	4 6.1%	12 18.2%	30 45.5%
	40代 (n=156)	34 21.8%	12 7.7%	12 7.7%	11 7.1%	7 4.5%	11 7.1%	2 1.3%	4 2.6%	30 19.2%	97 62.2%
	50代 (n=219)	42 19.2%	20 9.1%	29 13.2%	17 7.8%	7 3.2%	28 12.8%	5 2.3%	8 3.7%	34 15.5%	137 62.6%
	60代 (n=203)	46 22.7%	27 13.3%	32 15.8%	20 9.9%	10 4.9%	29 14.3%	4 2.0%	8 3.9%	20 9.9%	112 55.2%
	70代以上 (n=380)	68 17.9%	15 3.9%	53 13.9%	29 7.6%	7 1.8%	53 13.9%	7 1.8%	14 3.7%	26 6.8%	234 61.6%

※「無回答」を除いて割合が最も高い項目に着色

問 17 あなたは、デートDVを知っていますか。

デート DV を「知っている人」は 33.9%、「知らない人」は 63.4%となり、「知らない人」が半数以上を占める結果となっている。

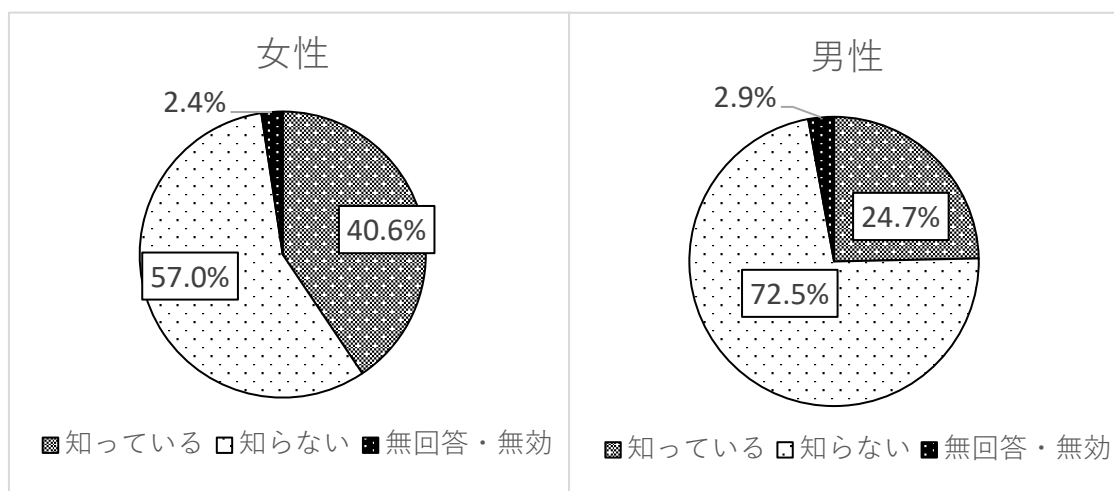
図 18-1 デート DV の認知 (n=1,083)



性別

性別でみると、デート DV を「知っている」割合は、女性が 40.6%であるのに対し、男性は 24.7%という結果になっている。デート DV の認知率は男性より女性の方が高いことが示されている。

図 18-2 【性別】デート DV の認知 (女性 n=628, 男性 n=454)

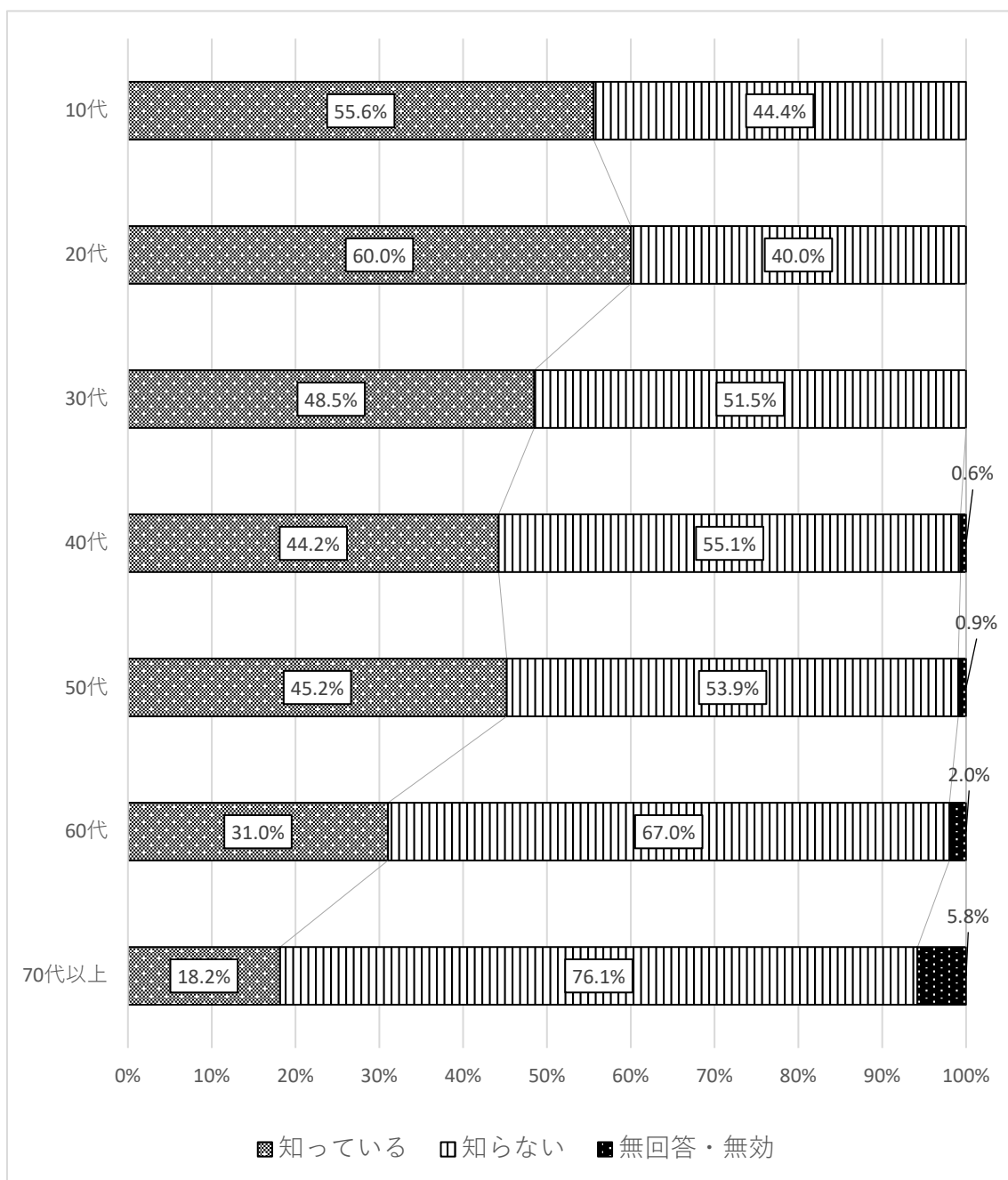


年齢別

年齢別でみると、「10代」「20代」の認知率は半数を超える一方で、30代以降になると半数を下回り、認知率が減少していく傾向がみられる。特に「70代以上」になると、認知率は18.2%まで低下している。

図 18-3 【年齢別】デートDVの認知

(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)

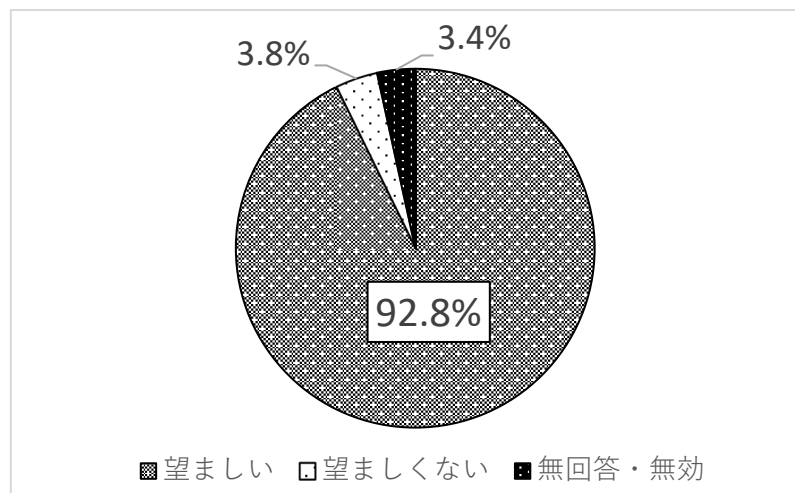


(8) 仕事と生活の調和について

問 18 あなたは、男性が家事、育児、介護等に主体的に参画することは望ましいと思いますか。

男性が家事、育児、介護等に主体的に参画することについて、「望ましい」と答えた人は 92.8% となっている。一方、「望ましくない」と答えた人は 3.8% となっている。

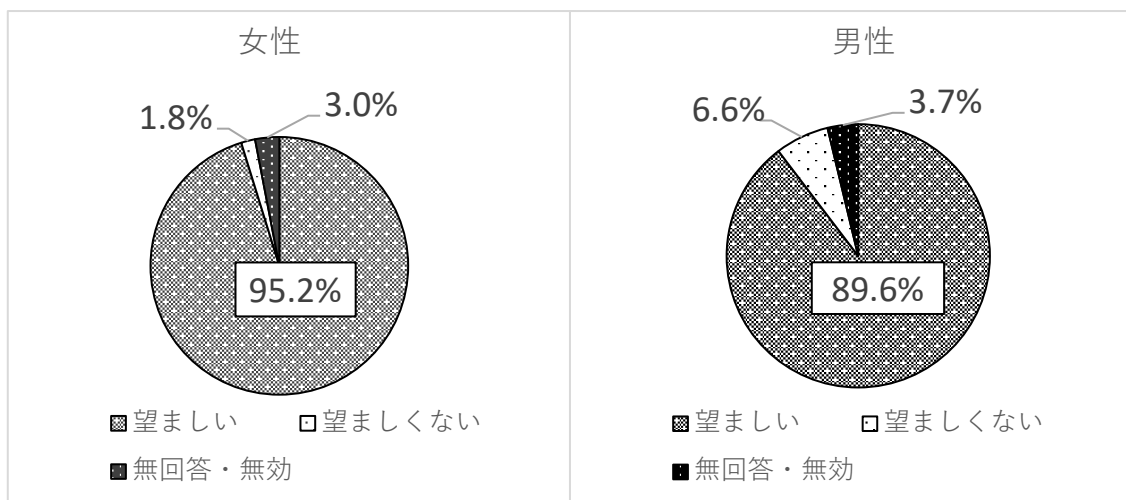
図 19-1 男性が家事、育児、介護等に主体的に参画することに対する意見 (n=1,083)



性別

性別でみると、「望ましい」と答えた人は女性で 95.2% であるのに対し、男性は 89.6% となり、男性より女性の方が「望ましい」と回答する割合が高い結果となっている。

図 19-2 【性別】男性が家事、育児、介護等に主体的に参画することに対する意見 (女性 n=628, 男性 n=454)

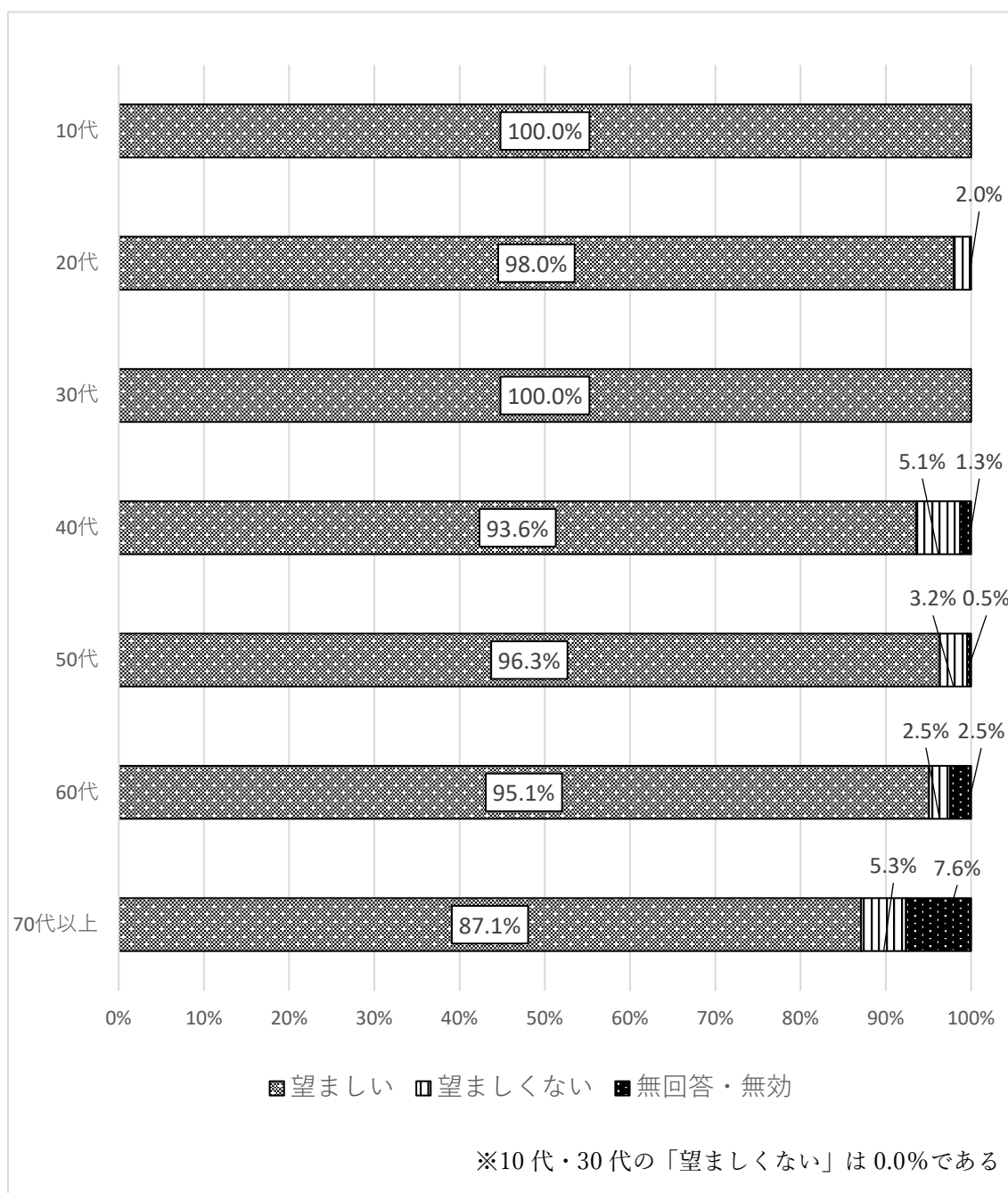


年齢別

年齢別にみると、10代～60代は「望ましい」と答えた割合が93.0%を超えている一方で、「70代以上」は87.1%と他年齢と比べて低い割合となっている。

図19-3 【年齢別】男性が家事、育児、介護等に主体的に
参画することに対する意見

(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)

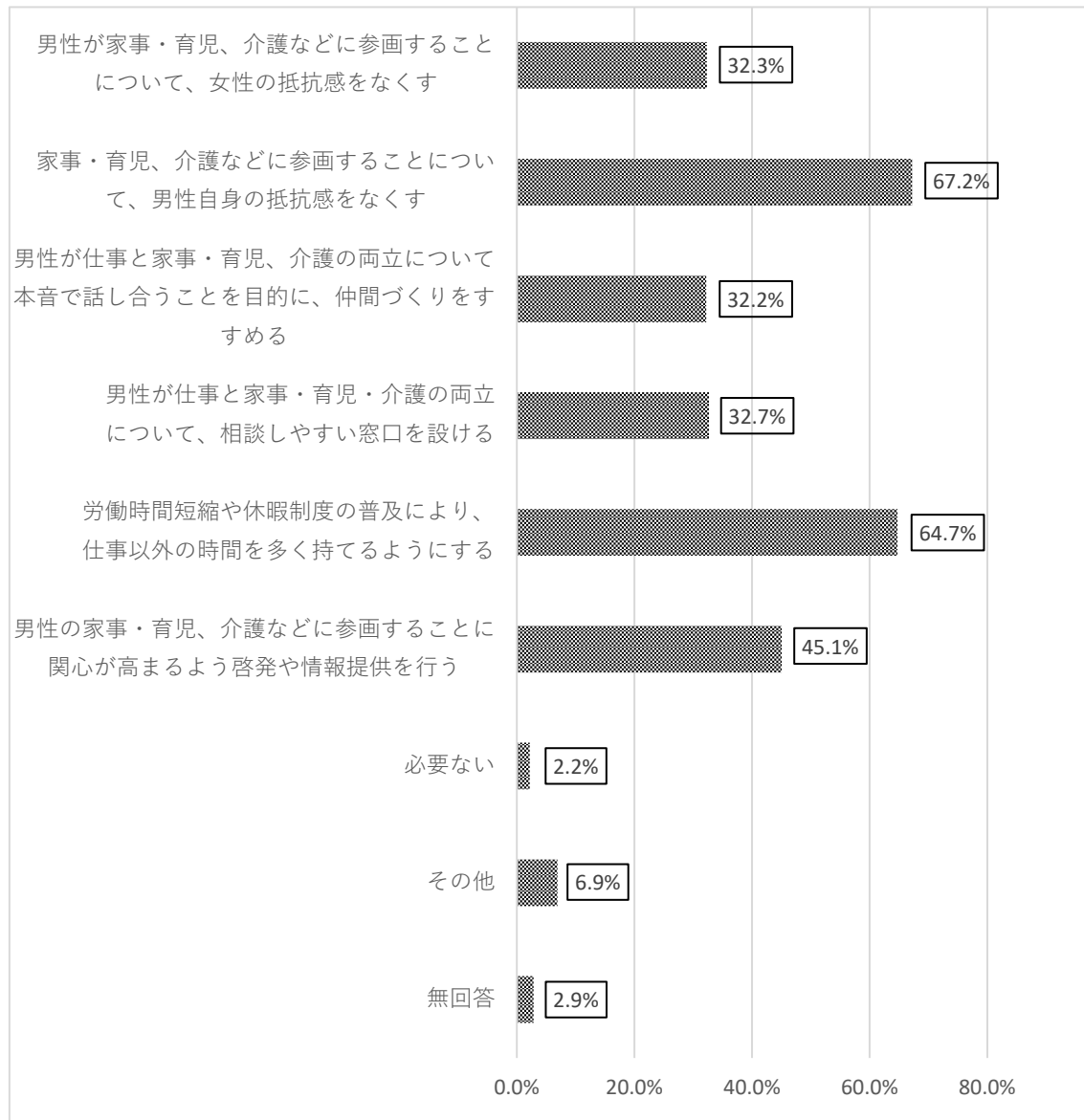


問 19 あなたは、男性が家事、育児、介護等に主体的に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男性が家事、育児、介護等に主体的に参画するために必要なことを尋ねたところ、「家事・育児、介護などに参画することについて、男性自身の抵抗感をなくす」を選択した人が最も多く 67.2%を占めている。

次いで、「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が 64.7%、「男性の家事・育児、介護などに参画することに関心が高まるよう啓発や情報提供を行う」が 45.1%と続いている。

図 20 男性が家事、育児、介護等に主体的に参画するために必要なこと (n=1,083)



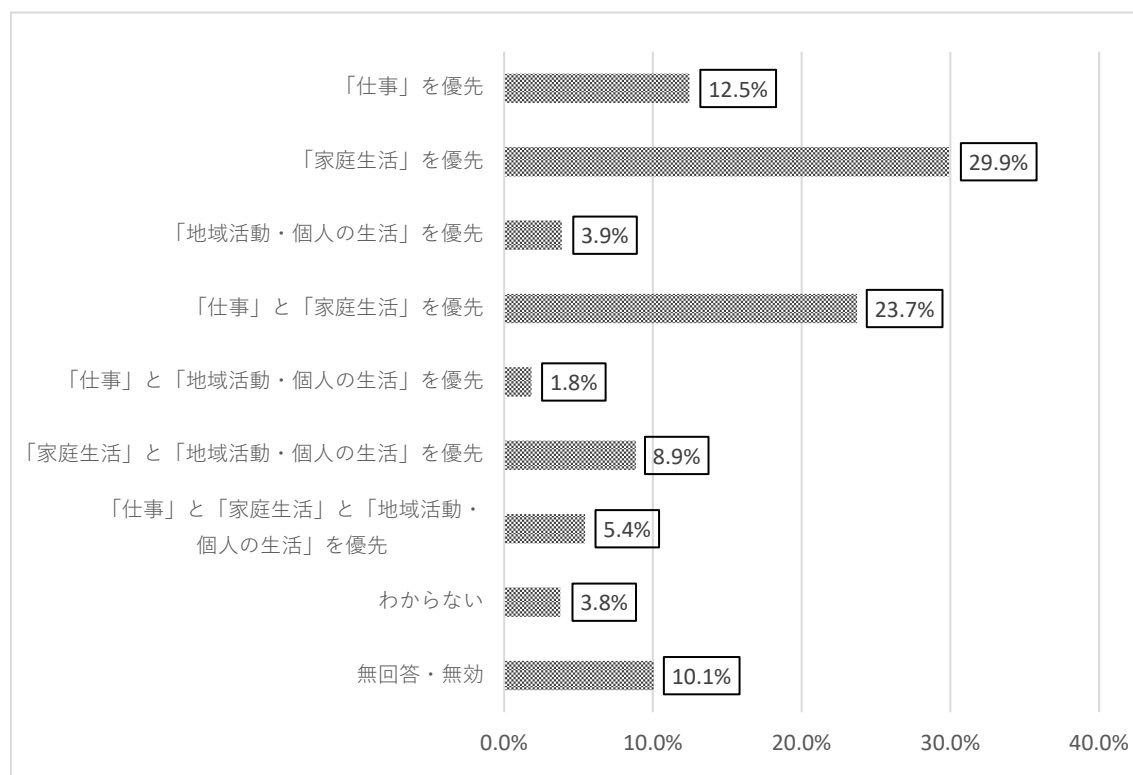
問 20-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味など）の優先度について、あなたの現実に一番近い選択肢はどれですか。（あてはまるもの1つに○）

「仕事」や「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、実際の生活に一番近いものを尋ねると、最も多かった項目は「家庭生活を優先」で29.9%となっている。

次いで、「仕事と家庭生活を優先」23.7%、「仕事を優先」12.5%となっている。

前回調査でも同様の結果となっており、上位3項目に変化はみられない。

図 21-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「現実」（n=1,083）



性別

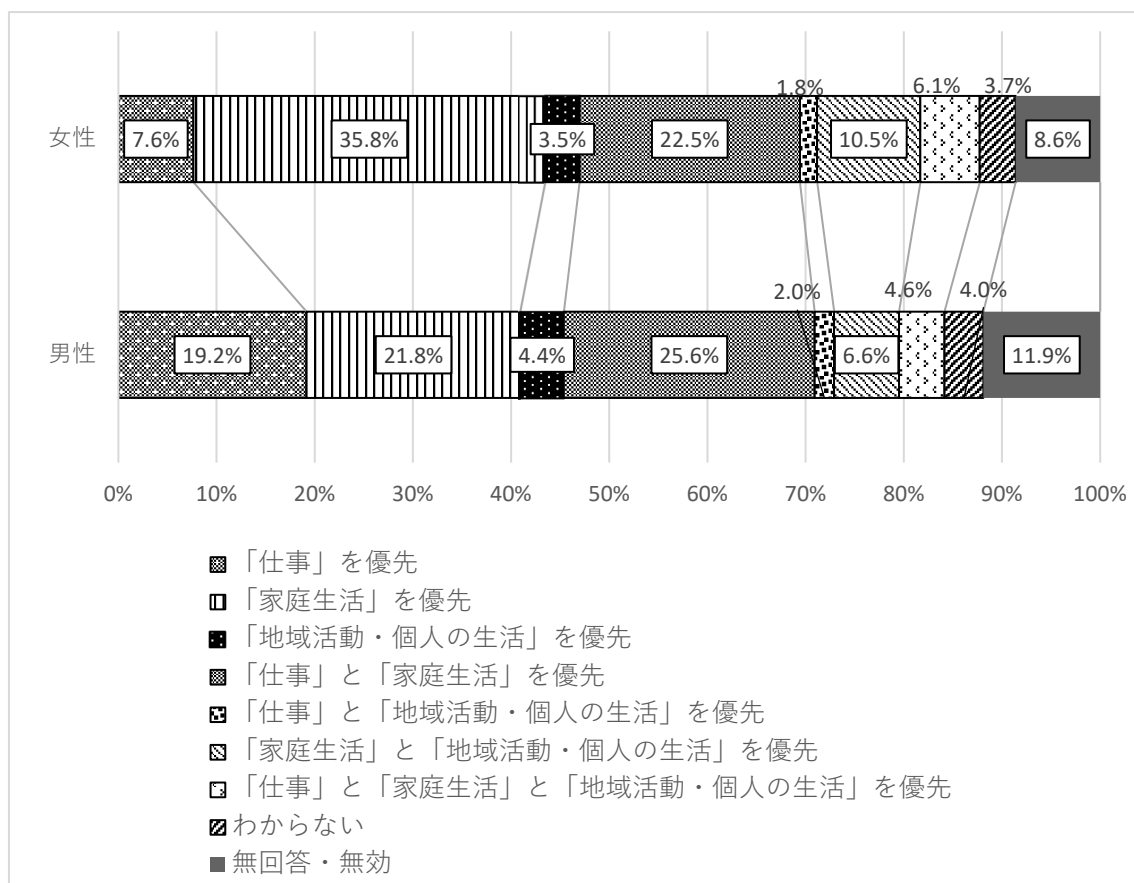
性別にみると、女性は多い順から「家庭生活を優先」35.8%、「仕事と家庭生活を優先」22.5%、「家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」10.5%と続いている。

男性は「仕事と家庭生活を優先」25.6%、「家庭生活を優先」21.8%、「仕事を優先」19.2%が上位3項目となっている。

前回調査と比較すると、女性の上位2項目には変化はないが、3項目目は「仕事を優先」から「家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」に変化している。

男性は上位1項目には変化がないが、2項目目と3項目目の順番が入れ替わり、「家庭生活を優先」が「仕事を優先」より多くなっている。男女共に「仕事」に関連する項目が減少した結果となっている。

図 21-2 【性別】仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「現実」（女性 n=628, 男性 n=454）



年齢別

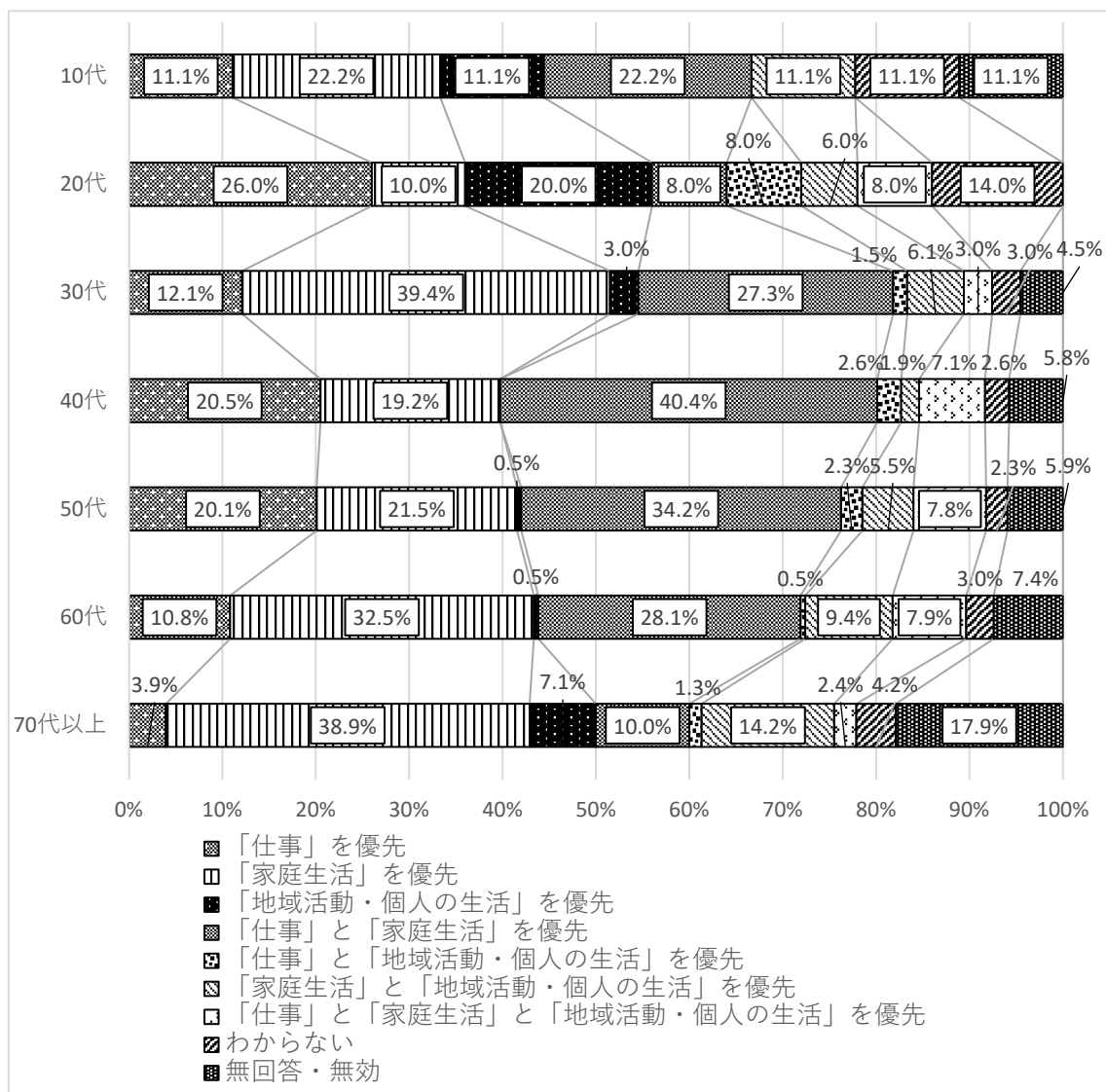
年齢別にみると、ほとんどの年齢層において、「家庭生活を優先」、「仕事と家庭生活を優先」、「仕事を優先」が上位 3 つを占めているが、「20 代」では「地域活動・個人の生活を優先」が 20.0%と 2 位に挙げられ、また「70 代以上」では「家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」が 14.2%と 3 位に挙げられている点が他年齢と異なっている。

また、「家庭生活を優先」は「30 代」が他年齢と比較して最も高く 39.4%となっている一方で、「20 代」は最も低く 10.0%にとどまっている。

「20 代」は「仕事を優先」の割合が 26.0%と他年齢と比較して最も高く、「20 代」の中で最も多い回答となっている。

図 21-3 【年齢別】仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「現実」

(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



問 20-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味など）の優先度について、あなたの希望に一番近い選択肢はどれですか。（あてはまるもの1つに○）

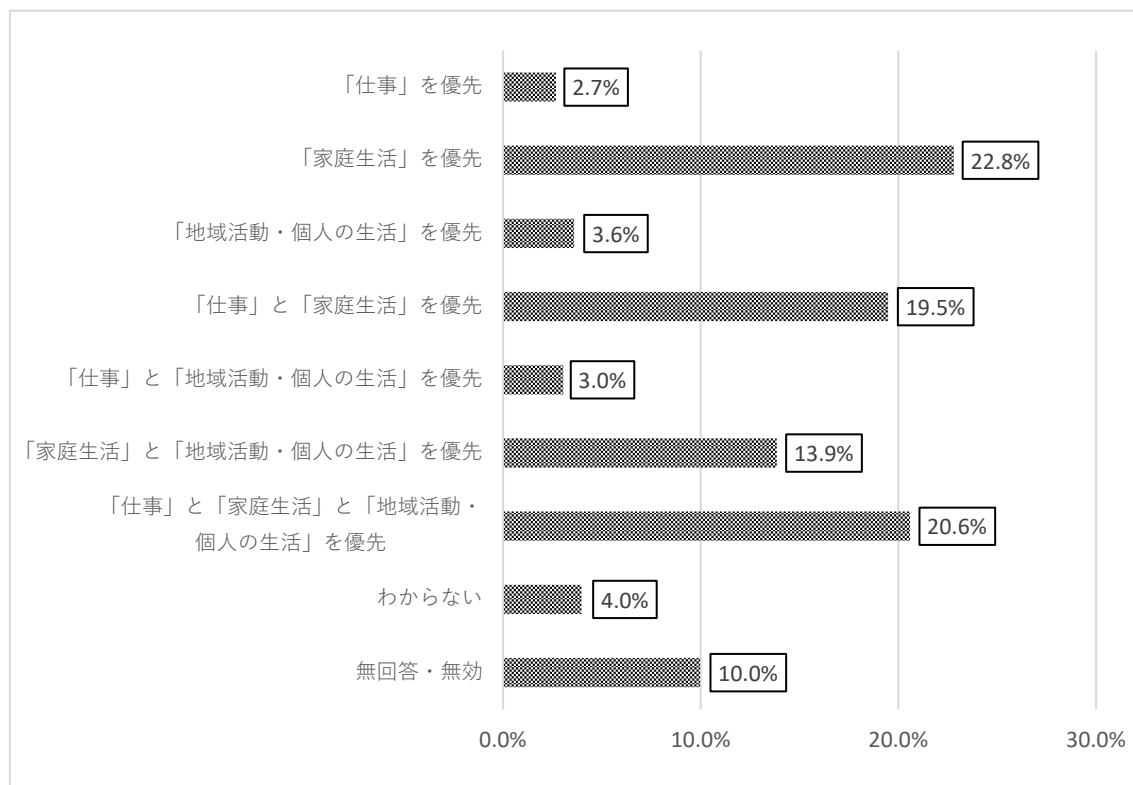
「仕事」や「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望の生活に一番近いものを尋ねると、最も多かった項目は「家庭生活を優先」で 22.8%となっている。

次いで、「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」20.6%、「仕事と家庭生活を優先」19.5%となっている。

「仕事を優先」は実際の生活では 12.5%で上位 3 項目に入っていたが、希望では 2.7%に過ぎなかった。

前回調査では「仕事と家庭生活を優先」が最も多かったが、今回調査では「家庭生活を優先」が最も多くなり、上位 1 項目と 3 項目目が入れ替わる結果となっている。

図 22-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「希望」（n=1,083）



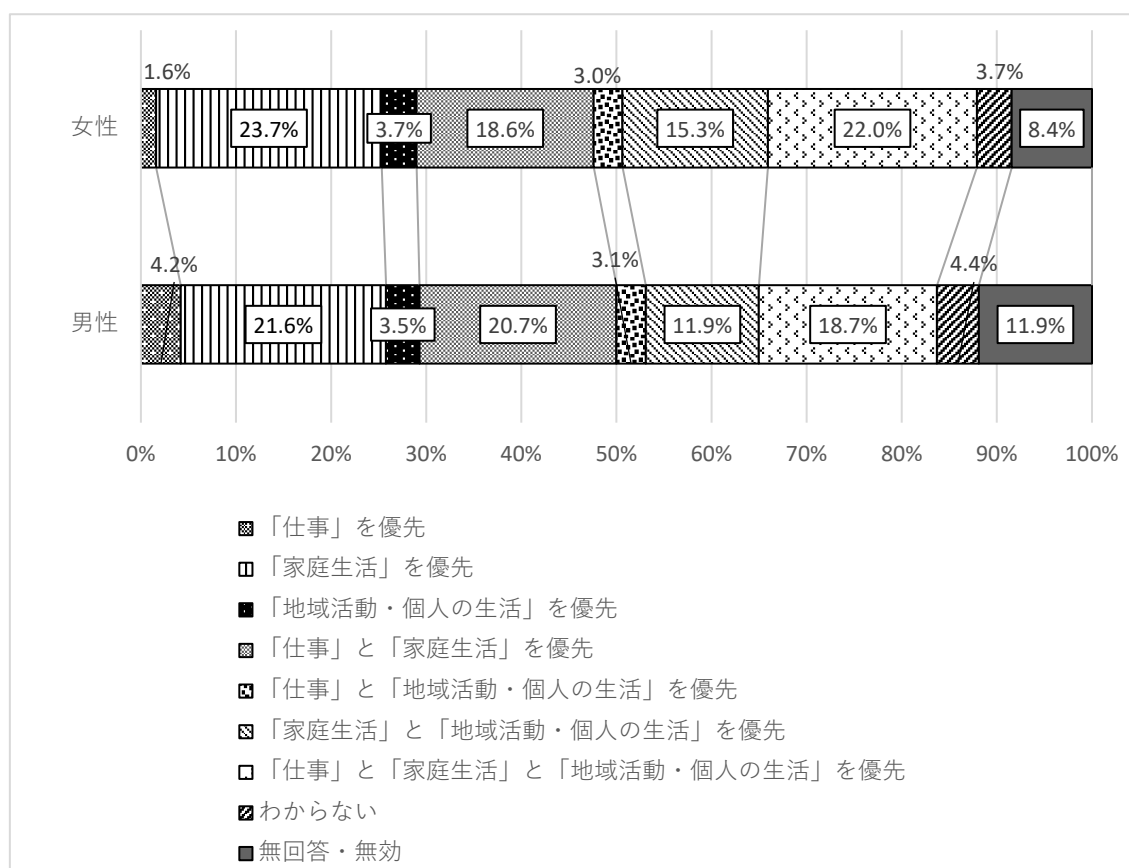
性別

性別で見ると、女性は多い順から「家庭生活を優先」23.7%、「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」22.0%、「仕事と家庭生活を優先」18.6%と続いている。

男性は「家庭生活を優先」21.6%、「仕事と家庭生活を優先」20.7%、「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」18.7%が上位3項目となっている。

前回調査において男女共に最も多かったのは「仕事と家庭生活を優先」であったが、今回調査では「家庭生活を優先」が最も多くなっている。

図 22-2 【性別】仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「希望」(女性 n=628,男性 n=454)



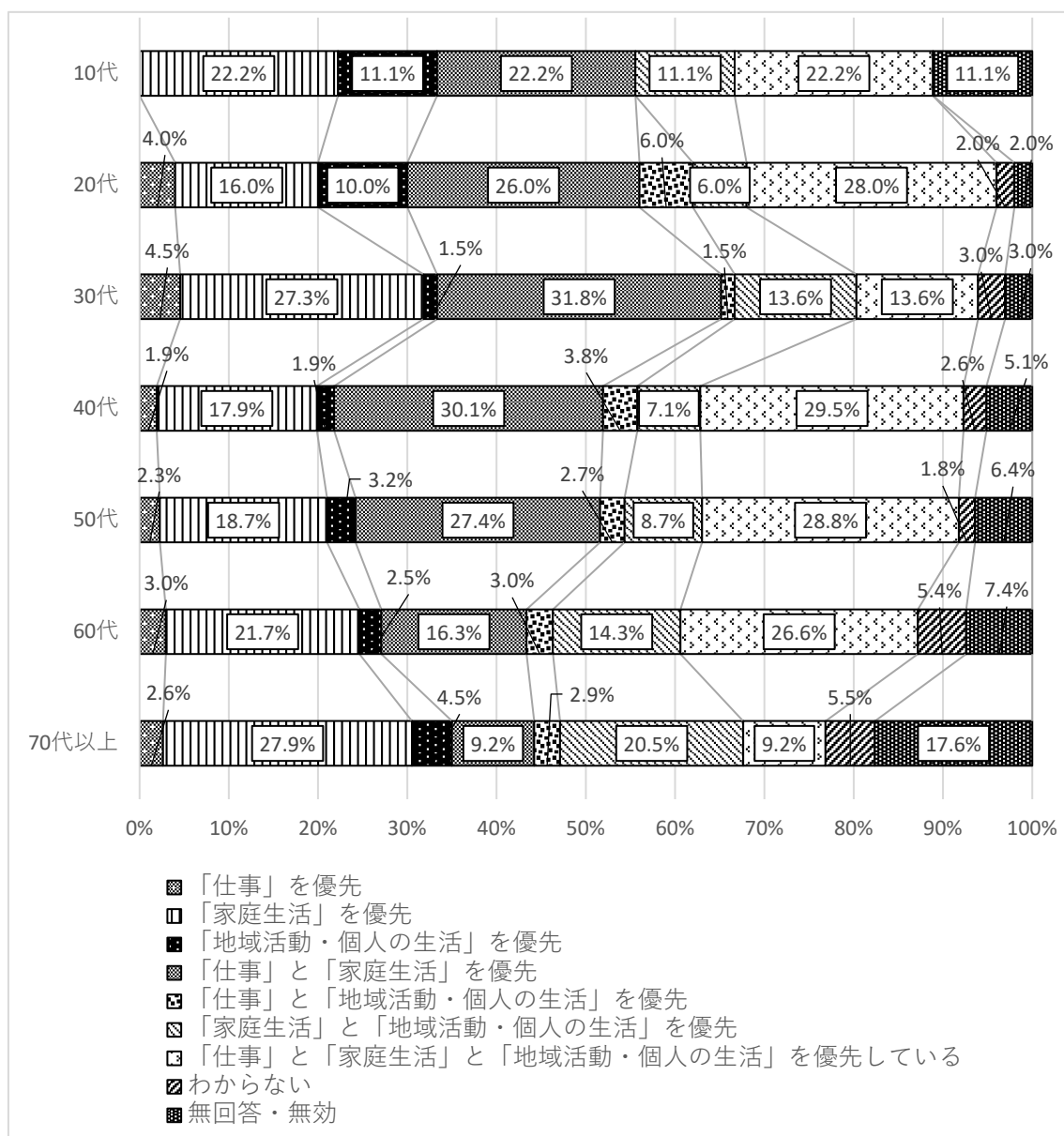
年齢別

年齢別にみると、ほとんどの年齢層において、「家庭生活を優先」、「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」、「仕事と家庭生活を優先」が上位 3 つを占めているが、「30 代」と「70 代以上」において、「家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」がそれぞれ 3 位と 2 位に挙げられている点が他年齢と異なっている。

また、「家庭生活を優先」は「70 代以上」が他年齢に比べて最も高く、「仕事と家庭生活を優先」は「30 代」が最も高い結果となっている。

図 22-3 【年齢別】仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「希望」

(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



【今回調査】

現実 表 8-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「現実」(上位 3 つ)

	全体	女性	男性
①	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先
②	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先
③	「仕事」を優先	家庭生活と地域活動・ 個人の生活を優先	「仕事」を優先

希望 表 8-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「希望」(上位 3 つ)

	全体	女性	男性
①	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先
②	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先
③	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先

【前回調査】

現実 表 9-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「現実」(上位 3 つ)

	全体	女性	男性
①	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先
②	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」を優先
③	「仕事」を優先	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先

希望 表 9-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「希望」(上位 3 つ)

	全体	女性	男性
①	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先
②	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先
③	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先